

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300647
法人名	有限会社 八起
事業所名	グループホーム新池
所在地	福岡県 北九州市 戸畑区 新池3丁目3-19
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年8月21日	評価結果確定日	平成25年12月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年、代表、管理者はこの地域の住民であり、ホームに隣接した自宅は同じ敷地にあるので、地域に根ざした介護事業が可能です。また、職員も地域住民が多く、明るく元気で、入居者とのコミュニケーションも円滑で、いつも笑いが絶えません。入居者の残りの時間を、その人らしく楽しく健康で過ごせるようにしていきたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関には、地域の方々へ「お茶を一緒にどうぞ」と呼び掛ける張り紙が掲示され、家庭的な雰囲気のあふれる事業所内は、普段着のままでもいられる温かさが伝わってくる。平成17年の開設以来、まもなく10年目を迎えようとする中で、当初から入居されている方が4名居住されており、昨年は、初めての看取りも経験している。重度化へと移行している中で、「食」を楽しむ支援や外出支援、排泄ケア等、個性ある柔軟な対応が行われており、支援の深さや広さが伝わってくる。また、法人代表、管理者が、長く地域住民であることで、地域との根付いた関係性の中にあり、地域の困難事例等への相談に応じながら、地域拠点としての役も担っている。広く福祉を捉えながら、「暮らし」を大切にしたい運営理念の実践が、随所に感じられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議以外の時でも、情報交換をし、理念を共有している。家族的雰囲気の中で自立利用者と共に協力し生活出来ている。	自分らしく、住み慣れた町で暮らし続けることを、支援の原点として位置付けている。少しずつ重度化へと移行する中で、広く福祉を捉えながら、個性ある「暮らし」を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	代表、管理者、職員3名が地域住民であり、民生委員との連携がとれている。地域の行事には、ほとんど参加し、馴染みの関係も出来ている。東戸畑市民センターでの「ふれあい交流会」でのお食事が人気です。	近隣から入居されている方も多く、地域の行事に積極的に参加し、運動会では席も設けられ、顔馴染みの関係の中で声かけや協力を得ている。行事の際に出会った方が、ホームを訪ねてくることもある。町内会に参加し、回覧版の受け渡しを行なっている。代表者が地域住民であることから、根付いた関係性の中で、地域の一人として、困難事例等への対応に積極的に支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者夫婦の介護の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動状況の報告と共に困難事例を相談し、話し合っている。職員との情報共有においてサービス向上につながっている。	運営推進会議は、家族を特定せず案内を行っており、複数の家族の参加を得ている。また、地域の各地区の民生委員の方々、地域包括支援センター職員の出席を得て、定期開催されている。現状報告や地域情報の収集、地域の困難事例への対応等について、忌憚のない意見交換が行われていることが、議事録から確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも電話連絡や訪問をし、協力関係を作っている。継続した相談が構築出来ており、ケアサービス向上につながっている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。在宅復帰の意向のある入居者の「自分らしく」の実現に向けて相談を行ったり、ケースワーカーの方との密な連携も図っており、顔の見える関係の中で、行政担当者との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は7:30~20:00まで開放している。バイアスピリン服用中の利用者に機能付きパジャマ使用。皮膚疾患の治療やパットを変更、改良し、普通のパジャマとなった。面会により施錠時間は何時でも変更可能。	日中、玄関は開放されている。外部研修参加や内部での伝達を通じて、職員の共有認識を図っている。個別の疾患に応じた医療との密な連携や、管理者、職員による様々な視点からのアプローチが行われ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修をうけ、内部にも研修をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修をうけ、内部にも研修をしている。カンファレンス時や、面会時に家族と話している。家族のいない利用者本人には話している。	権利擁護に関する制度について、入居時や必要時に情報提供を行なっている。これまでの支援の実績や、検討事例も含め、必要時には活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表、管理者、ケアマネージャー3人による説明をし、理解、納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置して、外部への連絡先を掲示している。面会時において、ケアマネージャーや管理者が声をかけている。	運営推進会議の開催を広く家族に案内し、家族が意見を表出できる機会を確保しており、実際に、複数の家族の参加を得る機会が多い。毎月の支払い時を面談の機会としても捉え、意見や要望を収集している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月の会議以外でも毎日出勤している代表、管理者が意見や提案を反映させている。休憩時間の変更についての意見があったので会議にて検討した。	代表者・管理者は常勤となっており、職員と接する機会も多く、親身になって意見や提案に耳を傾けている。月例会議では、休憩時間の変更について提案があり、実際に反映される等、職員の自発的な働きかけを大切に捉え、また、課題としても捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修時には、手当を付け、資格試験時には勤務形態を変更し残業がないようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	資格がなくてもやる気のある人であれば、性別、年齢に関係なく採用している。会議においてマニュアル等を使用し話し合っている。	ハローワークを通じて募集・採用を行い、年齢や性別による排除は行っていない。外部研修参加を出勤扱いとする等、個別のスキルアップを支援している。休憩室の確保や、職員意見を反映した時間帯の変更等、働きやすさや自主性を重んじ、風通しの良い環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部、内部の研修を受けている。ビデオ、マニュアルにて会議等で話している。	高齢者虐待セミナーや認知症ケアに関する外部研修に参加し、内部での伝達を図っている。また、社会的な話題や報道等、タイムリーな事例を取り上げ、職員への周知を図っている。	

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意志を踏まえ、研修を受けるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回の交流、勉強会に職員と共に参加し、交流があり、サービスの質の向上が出来ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表、管理者、ケアマネージャーが連携をし、個別に居室にて話を聞いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時間が少なく管理者と会えない時等は、電話等にて話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の要望が一致していない時には、一定期間観察をし、後日理解してもらえよう説明をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との関係は対等である事を自覚し、築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で利用者の変化を連絡して話し合っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会は随時可能で、外食等、昔馴染みの所へ行っている。飲食店にて飲酒もドクターとの相談の上、体調に配慮しつつ行っている。	馴染みの店に、拘りの一品を食べに出かけたり、通い慣れた美容室を利用する際は、送迎のみ関わる等、馴染みの関係継続を支援している。地域の伝統行事である、戸畑祇園や起業祭への外出、また、以前同僚であった方や友人の来訪を歓迎している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を尊重しつつ、なるべくホールにて一緒に過ごすようにし、相互関係が保てるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても洗濯、日用品補充等の援助し、退居者への家族への暑中見舞い、年賀状を送付している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の希望、意向は把握出来ている。本人の認知度があがっている場合、家族と共に話し合いを充分にしている。	日常の中で、入居者個々人と向き合い、見出された思いや意向の実現に向けた取り組みや介護計画への反映が確認できる。日常の記録やモニタリング・アセスメントの内容は、日常の様子がわかりやすい。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の生活歴に配慮しつつ、集団生活に馴染んで行けるよう援助している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護日誌や業務日誌で把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには職員も参加し、家族と本人と共に話し合っている。本人、家族の要望により随時変更を検討し、ケアプランに活かしている。	定期的に、本人、家族、職員の参加するカンファレンスを実施している。また、身体面及び精神的でのアセスメント・モニタリングの内容は、簡潔、明瞭で、共有しやすい。介護計画も同様であり、個別性、具体性に富んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の生活歴による馴染みの飲食店等に同伴し昔話を傾聴している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院へ連れて行き社会との関係を保ち、民生委員との連携もとれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう支援している。同意された主治医との連携により検査、入院が可能。(ペースメーカー等の受信者1名)	入居時に、かかりつけ医について確認している。受診の際は、基本的に法人代表者が同行し、日頃の様子を伝えている。また、訪問診療の体制もあり、複数の医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。個別の看護記録が整備され、日々の健康管理につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が1週間に1回、3時間勤務し、問題があれば随時連絡報告し、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が改善されている。情報交換も家族だけでなくホームともとれている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの依頼書を家族と話し合いながら作成している。運営推進会議において民生委員と共に話し合っている。昨年6月ホームにて看取ったことがある。	重度化した場合の対応に係る指針やターミナル期の援助方針をもとに、家族への説明を行い、状況の変化に伴い、その都度、確認書を作成している。昨年、看取りを経験している。運営推進会議にて、終末期の支援について話し合いを行なっている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的研修を受けている。マニュアル配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練をしている。消防団、消防署が5分以内の所にある。会社関係2件と近隣住民とも連携がとれている。	年2回、夜間帯や様々な災害を想定し、避難訓練を実施している。近隣のタクシー会社や消防団との連携を図っている。食料や飲料水を備蓄している。代表者宅が近接しており、消防署も近隣に位置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながら、人格を尊重した言葉かけをしている。笑顔がみられるよう、反応のない方にも声掛けをしている。	開設して間もなく10年目を迎え、当初より入居されている方が4名居住されている。重度化へと移行する中で、個別の生活リズムの尊重に努め、食事の時間等にも柔軟に対応している。困難な事例であっても、「自分らしさ」を奪わないよう、一人ひとりの人格の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が外出する時、他の利用者にも声掛けをしリハビリも本人の自己決定を考慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の表情等に留意し希望にそい支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衛生面に留意し、自分の好みを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をとても楽しみにしている。自立者による片付けは職員との関係づくりに役立っている。味付けは普通にし、量により塩分を調整し、美味しく食べてもらえるようにしている。	職員が交替して食事作りにあたり、入居者の方々も役割分担して、下ごしらえ等に力を発揮してもらっている。個別の希望による飲食店で、こだわりの品を食べに出かけたり、喫茶を楽しむに出かける機会もあり、嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に記録し定期的血液検査や体重管理をしている。		

福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯等、口腔状態に留意し問題があれば受診している。予防として歯磨き粉は歯周病対応としている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の体力、自立度に応じ、支援している。パットを通気性の良いものにし、緩下剤使用時には頻回のトイレ使用をし、夜間ポータブルを使用している。	日中、夜間の状況を把握し、介護計画にも位置付けながら、個別の支援を行っている。排泄用品の検討や状況に応じた選択等、細やかな支援が行われている。快適に過ごせるよう配慮しながら、現在、おむつの使用を減らせるよう取り組んでいるところである。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食品を取り水分補給や、看護師の指示による腹部のマッサージを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に浴った支援をしているが入浴拒否がある。週4日の入浴日があり入居者の体調希望により変更し対応している。	基本的な入浴の設定はあるが、シャワー浴も含め、希望や体調、状況に柔軟に対応するようにしている。菖蒲湯や柚子湯等にて、季節感を楽しむ機会を持っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眼の具合に合わせてカーテン等で部屋を暗くし、昼寝をしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ノート等にて服薬の変更を共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ出し、食器拭き、洗濯ものをたたむ等、職員と共に行っている。		



福岡県 グループホーム 新池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域や家族と協力しながらできている。季節ごとに外出し(希望者)花を見ながらお茶をし、買い物をする。家族と買い物やお寺へお参りをしている。	少しずつ重度化へと移行している中で、個別や少人数での外出支援を行っている。日常的な外気浴や日光浴、喫茶を楽しむ機会や拘りの外食、地域の伝統行事である戸畑祇園や起業祭等、個別性ある外出支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	起業祭で、二人の入居者にお金を渡し好みの買い物をしていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族のライフスタイルに合わせ、電話をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間づくりに工夫している。排便時には臭いを消すようにしている。季節ごとのかべの飾り等を変えている。	玄関やリビングには、季節の花や観葉植物が置かれている。食卓やソファ、椅子が配置され、その時々のかつろぎの場所が確保されている。猫の存在を生きがいとされている方もおり、全体的に生活感が充分に感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前で外を眺めながら居よう椅子をおいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行動が上手くとれるように空間を作り、馴染みの物を使用している。地震時、危険と思われるものは、使用しないこととしている。	居室には、暮らしに必要な物や、使い慣れた家具が持ち込まれており、生活感ある部屋が多い。動線の確保や災害時の危険回避に配慮し、空間作りが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの方向を示すものを作り、階段には柵をつけ、エレベーターを使用して1階へ降りる様になっている。		